

高等学校における道徳的実践意欲を高める 情報モラル指導の在り方に関する研究

《研究協力校》

岩手県立紫波総合高等学校

岩手県立花巻南高等学校

平成 27 年 3 月

岩手県立総合教育センター

情報・産業教育担当

大 懸 慈 人

菅 原 一 志

石 川 修 司

佐々木 淳

齋 藤 秀 一

川 地 里 美

熊 谷 明 宏

八重樫 一 矢

企 画 担 当

三 田 正 巳

《目次》

I	研究目的	1
II	研究の内容と方法	1
1	研究の内容と方法	1
2	授業実践の対象	1
III	研究結果の分析と考察	1
1	高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想	1
(1)	高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本的な考え方	1
(2)	教材作成の配慮事項	3
(3)	授業実践及び検証	3
(4)	高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想図	3
2	高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導のための教材作成	4
(1)	教材作成に関する基本的な考え方	4
(2)	教材作成の視点	4
3	授業計画と検証計画の立案	4
(1)	授業計画	4
(2)	検証計画	6
4	研究協力校における授業実践	8
5	授業実践結果の分析と考察	11
(1)	SNS の利用状況	11
(2)	授業実践結果	11
6	高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関するまとめ	13
(1)	成果	13
(2)	今後の課題	13
IV	研究のまとめと今後の課題	14
1	研究の成果	14
2	今後の課題	14
	<おわりに>	14
	【引用文献】	14
	【参考文献】	14
	【参考 Web ページ】	14

I 研究目的

高等学校学習指導要領総則には、「道德教育を進めるに当たっては、特に、道德的実践力を高めるとともに、自他の生命を尊重する精神、自律の精神および社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うための指導が適切に行われるよう配慮しなければならない。」と記されている。

しかし、スマートフォンなどインターネットに接続可能な情報端末が急速に普及している現在、青少年の間でソーシャルネットワーキングサービス（SNS）へのいたずら画像のアップロードや、コミュニケーションツールによるいじめなどが問題になっている。こうした現状から、生徒の善悪の判断力の育成と道德的価値の理解を深めるための指導が十分であるとは言い難く、早急な対応が求められている。

このような状況を改善するためには、人間としての在り方生き方に関する教育の中から情報モラルに関する要素を抽出し、インターネットにおける情報の発信と受信の際に必要な道德的判断力や道德的心情の在り方について、生徒が考えを深めることができる教材を作成し、指導に活用することが必要である。

本研究は、高等学校の道德教育の一環として、インターネットにおける情報の発信と受信の際に必要な道德的判断力や道德的心情の在り方について、生徒が考えを深めることができる教材を作成し、その活用を通して生徒の道德的実践意欲を高める指導に役立てようとするものである。

II 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 道德的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想の立案
- (2) 道德的実践意欲を高める情報モラル指導のための教材の作成
- (3) 授業実践の計画、検証計画の立案
- (4) 授業実践結果の分析と考察
- (5) 研究のまとめ

2 授業実践の対象

研究協力校

岩手県立紫波総合高等学校、岩手県立花巻南高等学校

III 研究結果の分析と考察

1 高等学校における道德的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想

- (1) 高等学校における道德的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本的な考え方
ア 高等学校における道德教育

高等学校学習指導要領総則では、道德教育について「人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない」と述べられている。小・中学校と異なり、道德の時間が設けられていない高等学校では、各教科・科目、さらには学校の教育活動全般において道德教育に取り組む配慮が必要とされており、高等学校学習指導要領解説総則編では、それぞれの教科の学習指導要領の目標の中の、人間としての在り方生き方に関する教育に関連している記述について

解説されている。

このうち、共通教科「情報」では、教科の目標を「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」と示している。また、高等学校学習指導要領解説総則編では、共通教科「情報」の目標と人間としての在り方生き方に関する教育との関連について、「情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させることは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育成することにつながる」と示している。この記述の中の「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」とは、高等学校学習指導要領解説総則編で述べられているように、「情報モラル」を意味している。このように共通教科「情報」では、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」すなわち「情報モラル」が、人間としての在り方生き方に関する教育に関わっていることが示されている。

イ 情報モラル指導

「情報モラル指導者研修ハンドブック」(文部科学省・財団法人コンピュータ教育開発センター、2010)では、情報モラル指導は、相手を思いやり情報発信に責任を持つ、ルールやマナーを守るといった「心を磨く」領域と、情報社会の特性の理解、情報と安全に向き合う方法といった「知恵を磨く」領域の2領域に分けられている。また指導すべき情報モラルの分野として「情報社会の倫理」、「法の理解と遵守」、「安全への知恵」、「情報セキュリティ」、「公共的なネットワーク社会の構築」の5分野があげられているが、これらのうち「情報社会の倫理」と「法の理解と遵守」は「心を磨く」領域に、「安全への知恵」と「情報セキュリティ」は「知恵を磨く」領域にそれぞれ位置づけられ、「公共的なネットワーク社会の構築」は「心を磨く」領域と「知恵を磨く」領域のそれぞれにまたがる内容として位置づけられている。

当センターではこれまでに情報モラル指導のための体験型教材として、パソコンでのインターネットの活用に対応した「情報サイト」(2006)、携帯電話に対応した「スタモバLAN」(2008)、「スタモバLAN2」(2009)、ゲーム機からのインターネット接続に関する指導に対応した「ゲーム機です」(2011)、スマートフォンでのアプリの操作とグループチャットを疑似体験する「スタモバLAN3」(2013)を開発し、「知恵を磨く」領域の指導に活用してきた。また「心を磨く」領域については、「中学校道徳における情報モラル指導に関する研究」(2010)で読み物資料と展開例を作成し、これらを用いた指導について報告している。

ウ インターネットの活用における諸問題

スマートフォンなどインターネットに接続可能な情報端末が急速に普及している現在、高校生においては97.2%が携帯端末を所有しており、そのうち82.8%がスマートフォンを使用している(「平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査」内閣府)。携帯端末の急速な普及に伴い、青少年の間ではソーシャルネットワーキングサービス(SNS)へのいたずら画像のアップロードやインターネットの持つ匿名性に伴う誹謗中傷、チャットや通話等が無料でできるコミュニケーションツールによるいじめなどが問題になっており、これらの問題からは自分の行動が他者に与える影響を考慮し、望ましい行動を判断する力が身につけていない様子がうかがえる。インターネットの世界ではネットワークに接続した時点で、仕組みを理解しているかどうかに関わらず、ネットワークを介して「他の人」や「集団や社会」と関わることになるが、インターネットの世界も社会の一部

であり、日常生活と同様のモラルに基づく行動が求められる。高等学校卒業後に責任ある社会人として他者や集団、社会との間でより良い関係を構築していくために、情報モラルにおける「心を磨く」領域を指導する必要がある。

(2) 教材作成の配慮事項

高等学校学習指導要領解説総則編には、「道德教育は、豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道德性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている」と述べられている。ここで記載されている「道德性」とは、「道德的心情」、「道德的判断力」、「道德的实践意欲と態度」といった諸様相から構成されているが、その中の「道德的心情」とは「人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情」のことであり、「道德的判断力」とは「それぞれの場面において善悪を判断する能力」、「様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力」であるとされている。そして「道德的实践意欲」とは、「道德的心情や道德的判断力を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き」とであると述べられている。

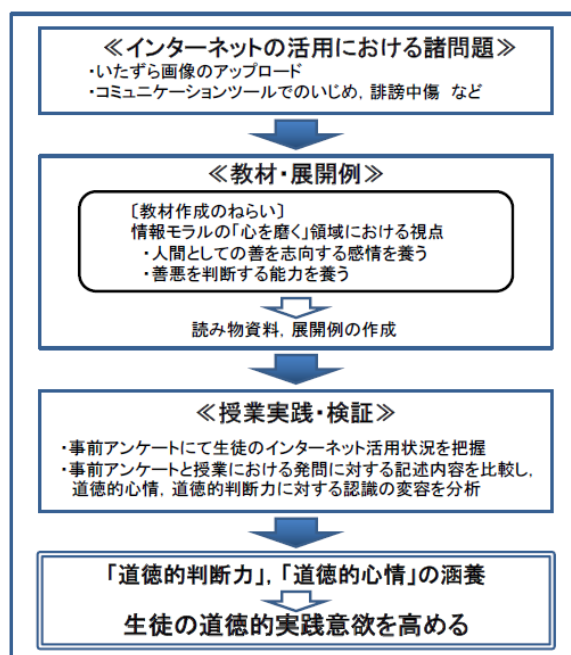
本研究では情報モラル指導の「心を磨く」領域の視点に立ち、インターネットにおける情報の発信と受信の際に求められる、人間としての善を志向する感情である「道德的心情」や、善悪を判断する「道德的判断力」について生徒が考えを深めることができる読み物資料を作成する。また、読み物資料を用いた授業の展開例も併せて作成する。教材の活用を通して、道德的心情や道德的判断力を涵養し、さらにこれらを基盤とする道德的实践意欲を高めることを目標とする。

(3) 授業実践及び検証

生徒のインターネット活用状況を把握するために、授業実践の事前にアンケート調査を行う。また、事前アンケートと授業実践での生徒の記述を比較することで、生徒の道德的心情や道德的判断力に対する認識がどのように変容したかを分析する。

(4) 高等学校における道德的实践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想図

高等学校における道德的实践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想図を、以下の【図1】に示す。



【図1】高等学校における道德的实践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想図

2 高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導のための教材作成

(1) 教材作成に関する基本的な考え方

小学校及び中学校学習指導要領では道徳教育の内容を、「主として自分自身に関すること」、「主として他の人とのかかわりに関すること」、「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」、「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の4つ視点から示している。また、高等学校学習指導要領においては、小・中学校における道徳教育を踏まえつつ、生徒の発達段階にふさわしい道徳教育を行うことが大切とされている。高等学校は「他の人」そして「社会」へ、これまで以上につながりが広がっていく時期であるが、近年はインターネットにおけるコミュニケーションツールが普及し、不特定の人々と容易にコミュニケーションをとることが可能になっている。こうした近年の高校生におけるコミュニケーションの広がりを考慮し、本研究では道徳教育の視点の「主として他の人とのかかわりに関すること」と「主として集団や社会とのかかわりに関すること」について教材作成を行う。

(2) 教材作成の視点

読み物資料においては、多くの高校生が活用する SNS 等のコミュニケーションツールなどを題材として、高校生の日常生活やインターネット活用の実態を考慮した内容とする。さらに、教材を通して、道徳的実践意欲の基盤となる道徳的判断力や道徳的心情の在り方について生徒が考えを深められるように、インターネット社会で自分が取るべき正しい行動を判断することや自分の責任を自覚すること、相手の心情や立場を尊重することの大切さについて考えるものとする。

3 授業計画と検証計画の立案

(1) 授業計画

開発した教材を用いた授業実践を行うにあたり、以下の視点で計画した。

ア 授業実践では教材として、SNS におけるいたずら画像の発信を題材として扱った読み物資料【資料1】を用いる。

イ 読み物資料の前半部分を漫画化した補助資料（読み物資料マンガ版）【資料2】を併用し、生徒の興味・関心の向上、物語の背景の理解と物語への感情移入の補助を図る。

ウ 今回の授業実践では、各生徒が情報端末（携帯電話及びスマートフォン）と情報モラル指導用教材「情報サイト」の掲示板を活用して意見交換を行う。各生徒が情報端末から入力した意見を掲示板で確認することで、短時間で全員の意見を共有できる。また、匿名で入力することにより、口頭での発表が苦手な生徒でも自分の考えを自由に表出できることが期待される。

【資料1】読み物資料

「夏休みのアルバイト」(SNS)

I.

ぼくは高校2年生。中2のときに始めたギターにはまり、部活が終わってから仲間と練習をしている。親はバンドをやっていることをあまりよくは思っていない。だけど、勉強、部活、バンドとできるだけ両立するように努力しているため、あまりうるさくは言われない。今のギターは先輩からもらったもので、もう4年も使っている。色がはげたりネックが曲がってきた

りして、かなり年季がはいってきた。秋に開くコンサートのために、新しいギターが欲しい。夏休みにアルバイトしてお金を貯めようと思っていたが、親には猛反対されてもめた。最終的には、夏休み中、週4日4時間、19時まで家に帰ることで何とか親が許してくれた。欲しいギターには手は届かないが、条件をのんだ。

次の週から、コンビニのアルバイトを始めた。はじめは掃除、商品の陳列から教わった。人が少ないときはレジを打つことも教えてもらった。店長さんをはじめ働く人たちはとてもいい人で、何でも優しく教えてくれた。

そんなある日、バイト先の先輩で大学生のゆうきさんに、

「サークルの行事が入ったからシフト変わってくれない？」と、言われた。

帰りの時間がいつもより少し遅くなるから、その日だけ親に許可を取った。ゆうきさんには、

「店長にはオレから言っておくから、サンキュー」と、言われた。

そのシフトを変った日は、あきらさんとペアだった。あきらさんは、ぼくより一つ上の先輩だ。あきらさんとは仲もよく、学校のことや勉強のことをメールで相談したり、遊びに行ったりすることもある。その日の夕方はかなり人が多く、店は賑わっていた。しかし、時間が経つにつれ人もまばらになり、一通り仕事が終わったところで、二人で休憩時間に入った。

休憩時間、事務室は二人きりで、備え付けのドリンクと、消費期限の切れたホットスナックが置いてあった。二人は飲食しながら学校の話で盛り上がった。

しばらくするとあきらさんが、

「そうだ、二人で写真撮ろうよ。」と、言った。

スマホを持ち出し、バイト先の制服姿で2ショット写真を何枚も撮った。さらに悪ふざけをして、ホットスナックをほおぼる仕草でポーズした。

その日のバイトが終わり家に帰った。夕食を食べ、勉強しようと机に向かった瞬間、スマホが鳴った。あきらさんからだと直感でわかった。メールには写真が何枚か添付されていた。本文の最後にはリンクがあった。それはあきらさんのSNSだった。そのリンクをタップすると画面にはホットスナックをほおぼる2ショット写真が写っていた。ぼくは、「あっ」と思った。

.....

II.

その写真は瞬く間に広がり、SNSで批判を浴びた。

「この制服、コンビニの〇〇〇だよね。」

「店の品物勝手に食べていいの？」

「店員がこんなことしていいのか。」

「店員の教育、なってないんじゃないの。」

.....

.....

【資料3】事前アンケート

インターネット機器の利用に関するアンケート

学校名 _____ 高等学校

1年 組 _____ 番 氏名 _____

以下の質問のうち、あてはまるものを **○** で囲んでください。

1. インターネットを利用するときに、よく使う機器は何ですか？【複数回答可】

ア) パソコン	イ) スマートフォン	ウ) 携帯電話	エ) タブレット型端末	オ) その他
---------	------------	---------	-------------	--------

2. インターネットにつないでよく利用するサービスは次のどれですか？【複数回答可】

ア) SNS	イ) 電子メール	ウ) インターネット検索	エ) 音楽やゲームのダウンロード
オ) オンラインゲーム	カ) ネットショッピング	キ) ネットオークション	ク) YouTube(ユーチューブ)
ケ) 掲示板	コ) チャット	サ) プロフィールサイト	シ) ニコニコ動画
ス) インターネットを使用していない			

3. あなたは、SNSを利用するときに次のどのサービスをよく利用していますか？【複数回答可】

ア) LINE(ライン)	イ) Twitter(ツイッター)	ウ) Facebook(フェイスブック)	エ) GREE(グリー)
オ) mobage(モバゲー)	カ) mixi(ミクシー)	キ) milkcafe(ミルクカフェ)	ク) SNS を利用していない

4. あなたはメールや SNS、動画サイトなどで、自分から情報を発信していますか？【1つだけ選択】

ア) よく発信している	イ) たまに発信している	ウ) あまり発信していない	エ) 発信していない
-------------	--------------	---------------	------------

5. メールや SNS、動画サイトなど、インターネット上に情報を発信するときに心がけていることや、注意していることは何ですか？

6. SNSを利用して、嫌な思いをしたことがありますか？【1つだけ選択】

ア) よくある	イ) 少しある	ウ) あまりない	エ) まったくない
---------	---------	----------	-----------

7. SNSを利用して嫌な思いをしたことがあれば書いてください。
(支障がないように、名前等の記入がされていなくても大丈夫です。)

【表 1】 SNS の活用における道徳的判断力と道徳的心情の変容の検証基準

検証内容	変容の検証基準
道徳的判断力	「(正しい行動を) 判断すること」や「(自分の行動がどのような結果につながるかを) 予想すること」に関する内容を記述している。
道徳的心情	「相手の気持ちを考えること」や「相手の立場を考えて行動すること」に関する内容を記述している。

4 研究協力校における授業実践

(1) 期日と対象

ア 平成 26 年 11 月 27 日 (木)

岩手県立紫波総合高等学校 1 年 D 組 (男子 16 名, 女子 18 名 計 34 名)

イ 平成 26 年 11 月 28 日 (金)

岩手県立花巻南高等学校 1 年 4 組 (男子 19 名, 女子 21 名 計 40 名)

(2) 資料名 「夏休みのアルバイト」 (SNS)


(3) 題材のねらい

SNS によるいたずら画像の発信を題材とした読み物資料を通して、インターネットで情報発信する際の善悪の判断、自分の行動に対する責任の自覚、相手の気持ちや相手の立場を配慮することを生徒に考えさせ、道徳的判断力と道徳的心情の涵養を図る。


(4) 指導展開

授業の展開例を【資料 4】に示す。なお、授業の「学習内容 8. 《掲示板での自由記述③》」で事前アンケート (前頁【資料 3】) の 5 と同一の発問を行った。

【資料 4】授業の展開例

時間	学習内容	学習活動と主な発問	指導上の留意点等
導入 5 分	1. アップロードされた画面の客観的な印象を考える。	<p>〔生徒への発問〕</p> <p>アップロードされた画像を見て、客観的にどんな印象を受けるか。</p> <p>○口頭で意見を述べる。</p>	<p>○アップロードされた画像 (イラスト) を表示。</p>  <p>【予想される意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう ・仲が良さそう など
展開 30 分	2. 読み物資料 (マンガ版) を読み、物語の背景を理解する。	○読み物資料 (マンガ版) を読む。	○読み物資料 (マンガ版) を配付する。
	3. 読み物資料の前半部分を読み、物語の詳細を理解する。	○読み物資料 (I) を読む。	○読み物資料の前半部分 (I) を配付し、授業者が朗読する。

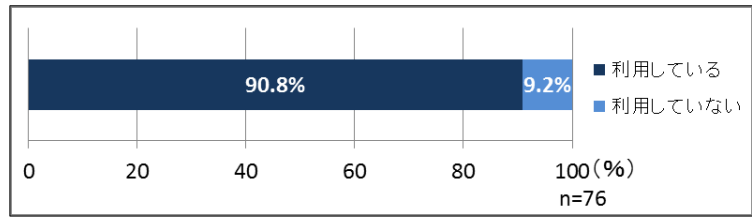
<p>4. 主人公の立場に立ち、自分の気持ちを表出する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>《掲示板での自由記述 ①》</p> <p>『ぼくは「あっ」と思った』とあるが、アップロードされた画面を見て主人公はどう思ったか。主人公の気持ちを「モバイル掲示板1」に入力する。</p> </div> <p>○他の生徒が入力したコメントを読み、情報を共有する。</p> 	<p>○「モバイル掲示板1」に無記名で書込むよう指示する。</p> <p>○書き込んだ後「更新」ボタンをクリックし、他の生徒の投稿も確認する。</p> <p>○主人公の立場に立ち、率直な気持ちを書き込むよう指示する。</p> <p>○机間指導を行い、入力できない生徒にはサポートを行う。</p> <p>【予想される意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「載ってるな。」と思った。 ・「いい写真だな。」と思った。 ・「まずいかも。」と思った。 ・「顔がさらされてしまった。」
<p>5. 読み物資料の後半部分(Ⅱ)を読む。</p>	<p>○授業者の朗読する教材の続きを聞く。</p>	<p>○教材の後半部分(Ⅱ)を配付し、授業者が朗読する。</p> <p>【物語の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニの制服と顔から店が特定された。 ・店の商品を勝手に食べたと誤解された。
<p>6. 物語の結末に至った原因を考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>《掲示板での自由記述 ②》</p> <p>アップロードした画像の、何が良くなかったのかを考え、「モバイル掲示板2」に入力する。</p> </div> <p>○他の生徒が入力したコメントを読み、情報を共有する。</p>	<p>【予想される意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店の食べ物を食べていたのが良くなかった。 ・写真では食べていけないものか分からない。 ・そもそも他人に見られたのが良くなかった。

	<p>7. 6の生徒の記述を受けて、登場人物が情報発信する際の判断や、他人への配慮はどうであったかを考える。</p>	<p>〔生徒への発問〕</p> <p>①あきは画像をアップすることで、やがてどうなるか予想できなかったのか？</p> <p>②あきは「ぼく」の気持ちを考えていなかったのか？</p> <p>③あきは、SNSが誰にでも見られることを知っていたのか？</p> <p>④あきはSNSについての「知識」はあったが、自分のSNSが他人に見られることは想像できていたのか。</p> <p>○口頭で意見を述べる。</p>	<p>※生徒への発問を通して、重要な語句を板書し、「道徳的判断力」および「道徳的心情」に関わる内容を確認する。</p> <p>【予想される意見】</p> <p>①やがてどうなるか予想できなかった。 →「予想」と板書する。</p> <p>②「ぼく」の気持ちまでは考えていなかった。 →「相手の気持ち」と板書する。</p> <p>③SNSが誰にでも見られることを知っていた。 →「知識」と板書する。</p> <p>④自分のSNSが見られることまでは想像していなかった。 →「判断」と板書する。</p>
<p>終 末 15 分</p>	<p>8. 7の学習活動を受けて、メールやSNS、動画サイトでの情報発信の際に注意すべき点を考える。</p>	<p>《掲示板での自由記述 ③》</p> <p>自分がSNSなどインターネットで情報発信する場合、どのようなことを考えて行動したいかを考え、「モバイル掲示板3」に入力する。</p> <p>○他の生徒が入力したコメントを読み、情報を共有する。</p>	<p>○今後、インターネットで情報発信する上で注意すべきこと、心がけたいことを書き込むよう指示する。</p> 
	<p>9. まとめ</p>	<p>○社会を形成する一員として、責任があることを認識する。</p> <p>○コンピュータの向こうに相手がいることを考えて情報発信することの大切さを認識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えての情報発信 ・相手の立場がどうなるかを考えての情報発信 	

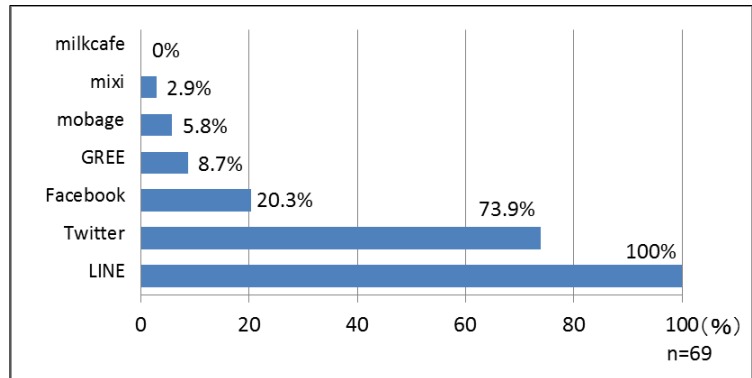
5 授業実践結果の分析と考察

(1) SNSの利用状況

事前アンケートを実施した結果、紫波総合高校、花巻南高校合わせて76名から回答が得られた。SNSを利用している生徒の割合を【図2】に示す。SNSを利用している生徒(69名)が、どのSNSを利用しているか集計したものが【図3】である。今回調査した高校生のうち90.8%がSNSを利用している。利用しているSNSとしては、生徒全員がLINEを利用していると回答した。LINEの次に利用者が多いのがTwitterで、73.9%が利用していると回答した。



【図2】 SNS を利用しているか



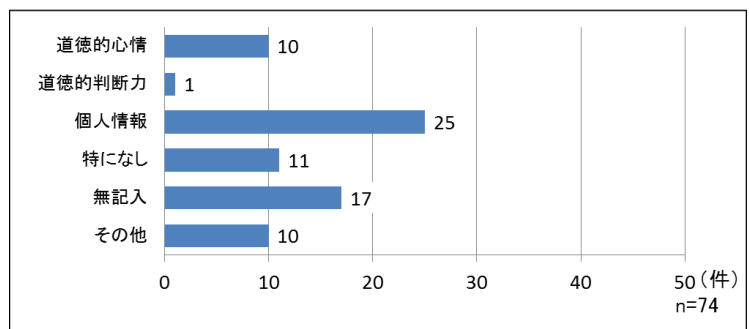
【図3】 どのSNSを利用しているか(複数回答)

(2) 授業実践結果

74名(欠席2名)の生徒が授業に参加した。この74名について、事前アンケート(【資料3】)の5と、授業の展開例(【資料4】)の「学習内容8.《掲示板での自由記述③》」で回答された記述を比較し、検証計画の【表1】で示したSNSの活用における道徳的判断力及び道徳的心情の変容の検証基準を基に生徒の変容を検証した。回答の中で、正しい行動を判断することや、自分の行動がやがてどのような結果につながるかを予想することの大切さについて記述した場合、「道徳的判断力」に対する意識が高まったものと判断した。また、相手の気持ちや立場を考慮することの大切さについて記述した場合、「道徳的心情」に対する意識が高まったものと判断した。

ア 事前アンケート

事前アンケートの5で記述された内容の内訳を【図4】に示す。最も多かったのが「個人情報」に関する記述の25件で、全体の33.8%を占めた。個人情報流出の危険性については、学校の情報モラル指導でも重要視されている内容である。また生徒たちはSNSを日常的に利用しており、個人情報がインターネット上に流出することの危険性を身近な問題として認識しているものと思われる。「個人情報」に関する記述の一部を【資料5】に示す。



【図4】 事前アンケートの5で記述された内容

【資料5】 事前アンケートにおける「個人情報」に関する記述

- ・個人情報を流出しないように注意する。
- ・個人情報をあまり載せないようにしている。
- ・勝手に友人の名前を出さない。
- ・個人を特定されないように、できないようにする。
- ・プライバシーに関わることを載せない。
- ・位置情報サービスを切る。

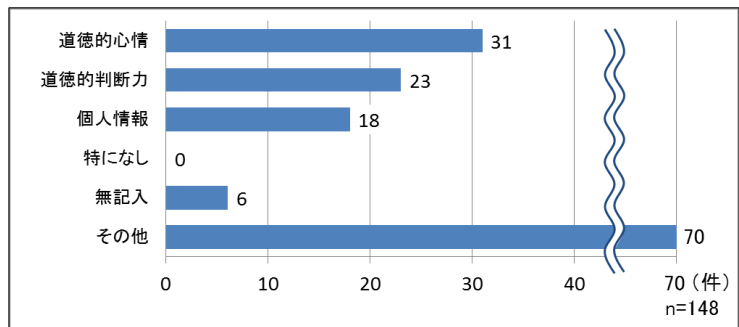
また、「個人情報」に関する記述の他に多かったのは「無記入」の17件(23.0%)で、「特になし」と回答したのも11件(14.9%)あった。なお、「道徳的心情」に関する記述は10件であった。記述の一部を【資料6】に示す。また、「道徳的判断力」に関する記述は、「これは発信していいのかと考えてやっている」の1件のみであり、「道徳的心情」と「道徳的判断力」を合わせた記述は11件(14.9%)と低い結果となった。

【資料6】事前アンケートにおける「道徳的心情」に関する記述

- ・ 誹謗中傷をしないこと
- ・ あまり良くないことは書かない。
- ・ 言葉などに気をつけている。
- ・ 変なことは書かないようにしている。
- ・ 悪口などは書かない。

イ 掲示板での自由記述③

掲示板に記述された文書数は134件で、事前アンケートの74件から大幅に増加した。記述された内容の内訳を【図5】に示す。なお【図5】の総文書数は148件となっているが、1つの回答に複数の内容が記述されていた場合、それぞれの内容を個別に集計したためである。掲示板での記述で最も多かったのが「道徳的心情」に関する記述の31件(20.9%)であった。「道徳的心情」について記述された一部を【資料7】に示す。事前アンケートで「道徳的心情」について書かれていた内容は、相手に配慮して誹謗中傷をしないことが中心であったが、自由記述③ではより相手の気持ちや相手の立場に寄り添った内容の記述がみられた。「道徳的判断力」に関する記述は23件(15.5%)と、事前アンケートの1件から大きく増加した。記述された内容の一部を【資料8】に示す。【資料8】にあるように、自分の行動がどのような結果につながるかを予想することの大切さについて記述されたものが多くみられた。



【図5】掲示板の自由記述③で記述された内容

【資料7】自由記述③における「道徳的心情」に関する記述

- ・ 相手の気持ちなどを考えながらネットを利用していきたい。
- ・ みんなが不快になるような投稿はしない。
- ・ 人の迷惑を考える。
- ・ 自分がやられて嫌なことはしないようにすればいい。
- ・ 許可をとってからやる。

【資料8】自由記述③における「道徳的判断力」に関する記述

- ・ これから先の未来のことを考えて行動することが大事。
- ・ その後の事を考える。
- ・ 後先を考える。
- ・ 載せていいことなのか考えてからアップする。
- ・ その場の軽い気持ちで行動しないようにしたい。
- ・ 良いことと悪いことの判断をしてから載せる！

【図5】では「その他」が70件と、多数を占めているが、この自由記述③では「道徳的心情」、「道徳的判断力」に関する内容以外にも、「問題になるくらいなら(SNSは)使わない方がいい」、「先輩に対してだめだといえるようにする」、「写真は加工して掲載する」といった様々な意見が得られた。これらの記述からは授業実践を通して、今回の研究でねらいとしていた「道徳的心情」や「道徳的判断力」に限らず、情報モラルにおける「心を磨く領域」、「知恵を磨く領域」のいずれの面においても生徒の考えが深まっていることがうかがえた。

ウ 道徳的心情及び道徳的判断力における変容

事前アンケートと授業実践での自由記述を比較し、授業実践を通して変容が見られた生徒の記述を【表2】に示す。授業実践を通して、生徒Aや生徒Bのように事前アンケートでは記述がなかった生徒や、生徒CのようにSNSをやっていない生徒でも、相手の気持ちや立場を配慮した記述や正しい判断をすることについての記述、すなわち「道徳的判断力」や「道徳的心情」に関する記述が増えている。

【表2】授業実践で変容がみられた生徒の記述内容

生徒	事前	事後
A	無記入	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合いとの写真を載せるなら許可をとらないと相手がどんな思いをするか分からない。 ・先のことを考えないと自分に被害がくる。
B	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考える。 ・しっかりとした説明。 ・善悪の判断。
C	SNSをやっていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・軽率な行動を避けたい。 ・相手の事も考える。 ・後先を考える。 ・自分がやられて嫌なことはしないようにすればいい。
D	個人情報には載せない。	<ul style="list-style-type: none"> ・後先の事をしっかりと考えて、載せても大丈夫なのかをしっかりと判断する。

また、「道徳的心情」または「道徳的判断力」について記述した生徒を「+」、記述していない生徒を「-」とし、授業実践の事前、事後で、その人数の変化を示したものが【表3】である。授業実践を通して「-」から「+」に変容した生徒は32名であった。これは事前アンケートで「-」だった生徒の50.8%であるが、事前アンケートで

【表3】授業実践を通じた道徳的心情及び道徳的判断力の変容 (n=74)

	事後	-	+
事前			
- (64名)		31	32
+ (11名)		4	7

「+」だった生徒が11名のみだったことを踏まえると、授業実践を通して「-」から「+」に変容した生徒数が大きく増加したことが分かる。このことから多くの生徒において道徳的心情および道徳的判断力に対して意識を高めることに効果があったと考えられる。

6 高等学校における道徳的实践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関するまとめ

(1) 成果

ア 授業実践を通して、インターネット上で情報発信する際に「判断すること」、「予想すること」、「相手の気持ちを考えること」、「相手の立場を考えて行動すること」が大切であることを生徒に認識させ、道徳的判断力や道徳的心情に対する意識を高めるとともに、これらを基盤とする道徳的实践意欲を高めることができた。

イ 情報モラル指導における高校道徳の進め方として、道徳性を養うための指導方法を検討し、教材を開発することができた。

(2) 今後の課題

今回の授業実践では、生徒からの意見発表に情報モラル教材「情報サイト」の掲示板を利用し

たが、生徒が口頭で意見を発表する場合、効果のあらわれ方に差が生じるかもしれない。同等の教育効果を得られるように授業の展開を工夫する必要がある。

IV 研究のまとめと今後の課題

1 研究の成果

- (1) 高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する基本構想の立案
道徳的実践意欲を高める情報モラル指導に関する基本的な考えをまとめ、基本構想を立案することができた。
- (2) 高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導のための教材の作成
基本構想に基づき、高等学校における道徳的実践意欲を高める情報モラル指導の在り方に関する教材を作成することができた。
- (3) 授業計画と検証計画の立案
基本構想に基づき、作成した教材を用いた授業計画及び検証計画を立案することができた。
- (4) 授業実践
授業計画に基づき、作成した教材及び展開例を用いた授業を実施することができた。
- (5) 授業実践結果の分析と考察
検証結果に基づき、授業実践を分析することにより、作成した教材および展開例の有効性を確認することができた。

2 今後の課題

- (1) SNS 以外の情報社会の諸問題を題材に扱った教材を開発する。また、情報社会の問題とされる部分だけでなく、情報社会が人々にもたらした恩恵を題材に扱った教材を開発する。
- (2) 作成した教材は情報モラルに焦点を当てた道徳指導教材として、共通教科「情報」の時間以外の LHR や総合的な学習の時間等でも活用できるものである。教科「情報」の担当者だけでなく、学級担任等を含めた教員全員が授業者の対象であることを意識し、教材の普及を図りたい。

<おわりに>

この研究を進めるにあたり、ご協力をいただきました研究協力校の先生方、生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。また、読み物教材マンガ版および授業スライド用イラストを作成していただきました岩手県立盛岡北高等学校2年梅野咲優さんに感謝を申し上げます。

【引用文献】

文部科学省(2009), 『高等学校学習指導要領』, p. 15, p. 125

文部科学省(2009), 高等学校学習指導要領解説総則編, p. 18, p. 21, p. 24, p. 77

【参考文献】

岩手県立総合教育センター(2010), 『中学校道徳における情報モラル指導に関する研究』

文部科学省・財団法人コンピュータ教育開発センター(2010), 『情報モラル指導者研修ハンドブック』

【参考 Web ページ】

内閣府(2014), 平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h25/net-jittai/pdf-index.html>